

平成18年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	◆調査対象	川崎市在住の満20歳以上の男女個人	◆調査方法	郵送法
	◆標本数	3,000 標本	◆調査期間	平成18年11月17日(金)～12月1日(金)
	◆標本抽出	住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数	1,270 標本
			◆有効回収率	42.3%
調査項目	1	定住状況について	6	選挙について
	2	生活環境の評価について	7	救急車利用について
	3	関心ごとと行動範囲について	8	火災予防について
	4	市政に対する評価と要望について	9	コミュニティビジネスについて
	5	安全・安心のまちづくりについて	10	川崎市職員について

※ 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数	構成比
1 男性	528	41.6%
2 女性	699	55.0
(無回答)	43	3.4
合計	1,270	100.0

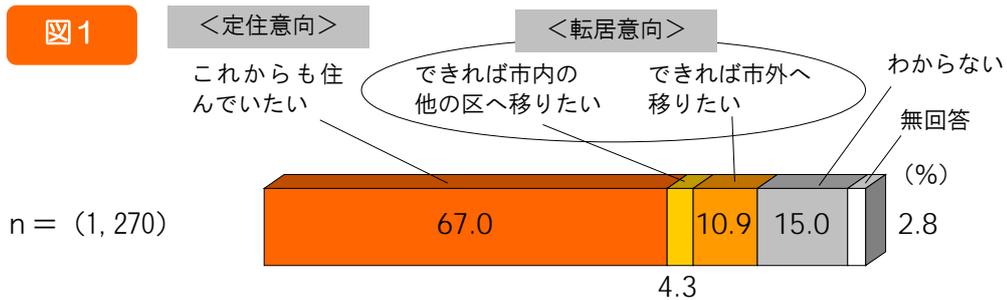
2 年齢・性／年齢

	全体		男性		女性		無回答	
	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比	基数	構成比
1 20歳代	142	11.2%	63	11.9%	79	11.3%	-	-%
2 30歳代	237	18.7	87	16.5	150	21.5	-	-
3 40歳代	213	16.8	88	16.7	125	17.9	-	-
4 50歳代	240	18.9	109	20.6	129	18.5	2	4.7
5 60歳代	227	17.9	97	18.4	130	18.6	-	-
6 70歳以上	174	13.7	84	15.9	85	12.2	5	11.6
(無回答)	37	2.9	-	-	1	0.1	36	83.7
合計	1,270	100.0	528	100.0	699	100.0	43	100.0

1 定住状況について

1 定住意向

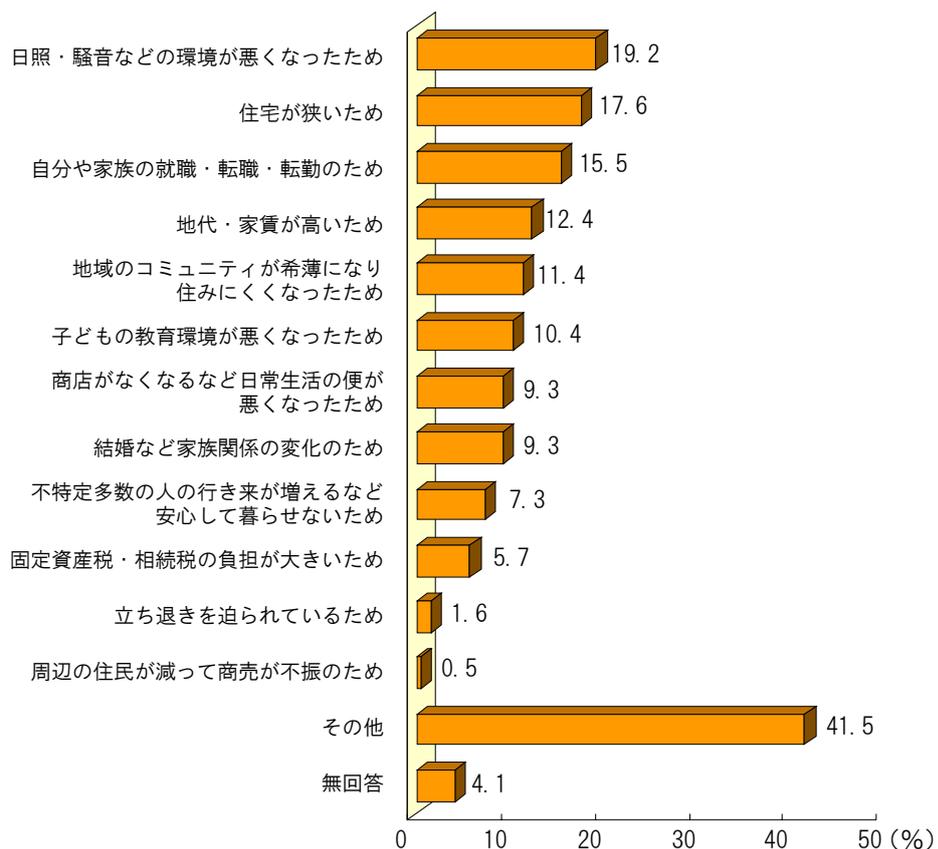
定住意向を聞いた。「これからも住んでいたい」は67.0%となっている。一方、「できれば市内の他の区へ移りたい」(4.3%)と「できれば市外へ移りたい」(10.9%)をあわせた<転居意向>は1割台半ばとなっている。



1- (1) 転居意向の理由

「できれば市内の他の区へ移りたい」または「できれば市外へ移りたい」と答えた方に、転居したい理由を聞いた。「日照・騒音などの環境が悪くなったため」(19.2%)、「住宅が狭いため」(17.6%)が2割に近く、「自分や家族の就職・転職・転勤のため」(15.5%)が1割台半ばである。また、「その他」が41.5%となっている。

図2 (複数回答) n = (193)

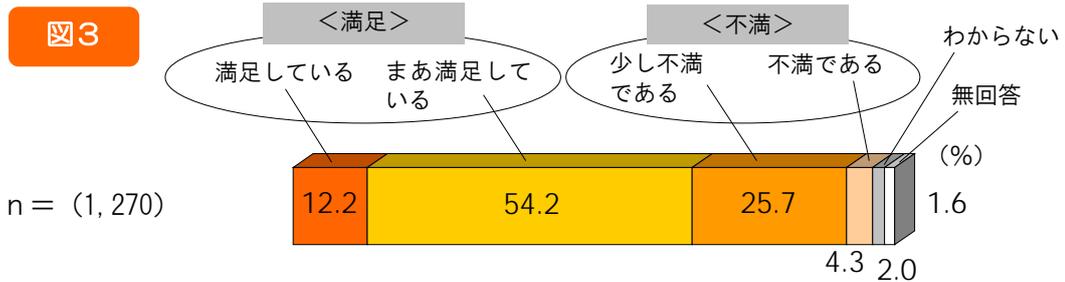


2

生活環境の評価について

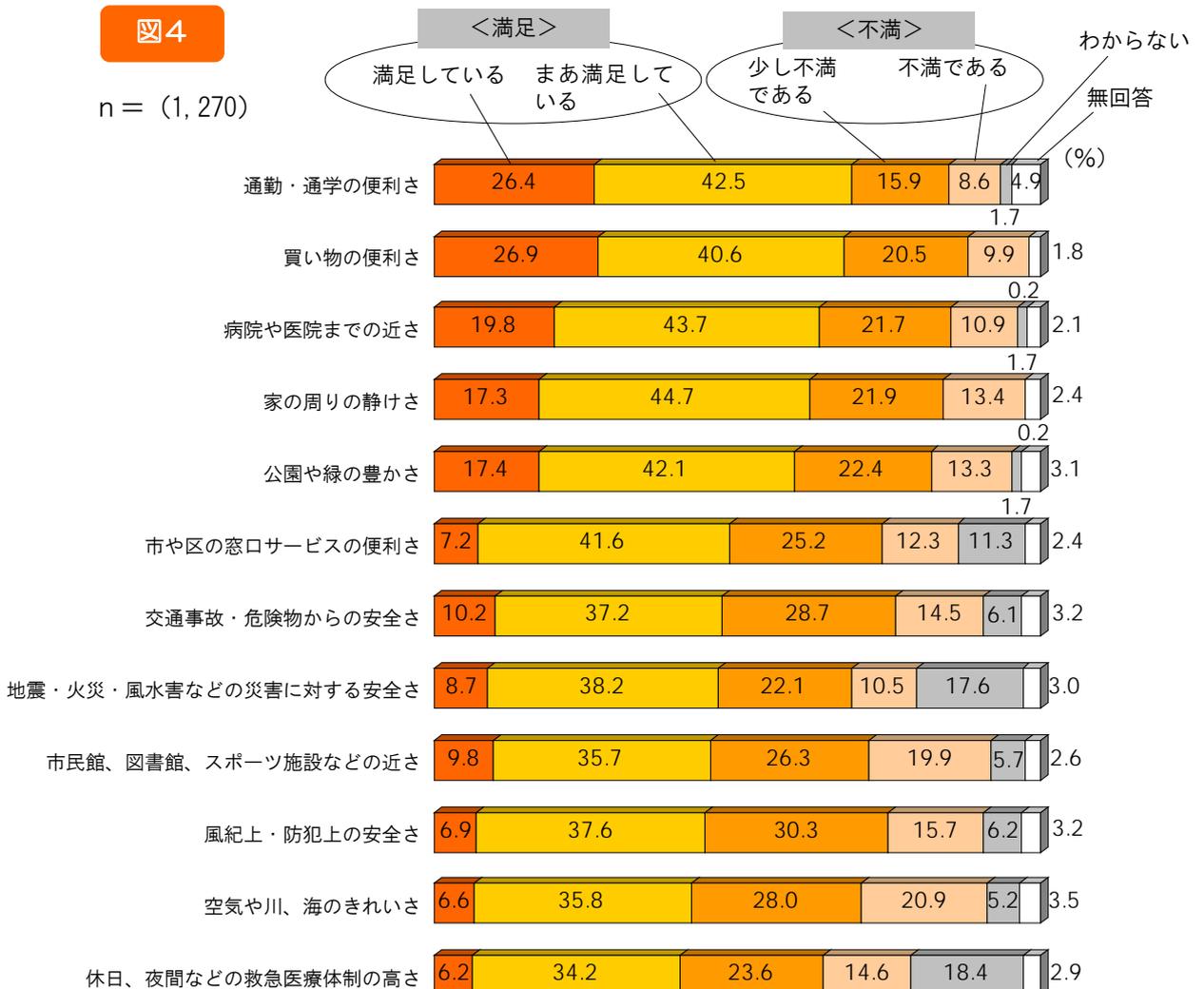
1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(12.2%)と「まあ満足している」(54.2%)をあわせた<満足>は6割を超えている。一方、「少し不満である」(25.7%)と「不満である」(4.3%)をあわせた<不満>は3割となっている。



2 生活環境の満足度

各項目の満足度について聞いた。<満足>が高いものは『通勤・通学の便利さ』(68.9%)、『買い物の便利さ』(67.5%)、『病院や医院までの近さ』(63.5%)、『家の周りの静けさ』(62.0%)、『公園や緑の豊かさ』(59.5%)などである。

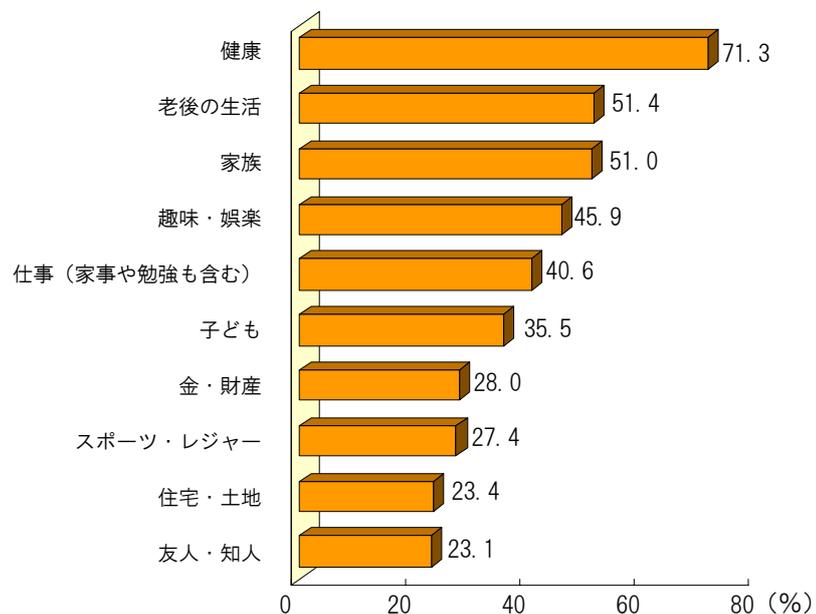


3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(71.3%)が7割で最も高くなっている。次いで、「老後の生活」(51.4%)と「家族」(51.0%)が5割である。以下、「趣味・娯楽」(45.9%)が4割台半ば、「仕事(家事や勉強も含む)」(40.6%)が4割、「子ども」(35.5%)が3割台半ばという順番で続いている。

図5 (複数回答、上位10項目) n = (1,270)



2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所を聞いた。『川崎市内』と回答した人が多かったのは、「図書館の利用」(61.1%)で6割となっている。次いで、「レストランなどでの飲食」(53.2%)が5割を超えている。以下、「観劇や映画鑑賞」(40.6%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(28.7%)、「スポーツをする(観る)」(26.0%)という順番で続いている。

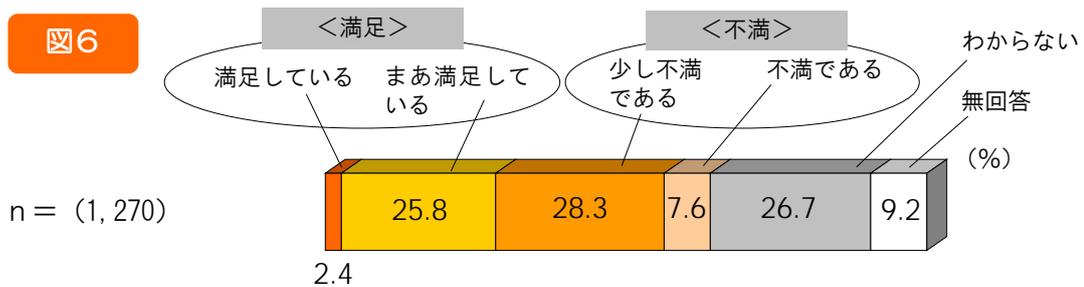
表1 (上位5項目) n = (1,270)

場所	順位				
	1位	2位	3位	4位	5位
川崎市内	図書館の利用 61.1	レストランなどでの飲食 53.2	観劇や映画鑑賞 40.6	自然に親しむための近距離の行楽 28.7	スポーツをする(観る) 26.0

4 市政に対する評価と要望について

1 施策や事業の総合的な満足度

施策や事業の総合的な満足度を聞いた。「満足している」(2.4%)と「まあ満足している」(25.8%)をあわせて<満足>は2割台半ばを超えている。一方、「少し不満である」(28.3%)と「不満である」(7.6%)をあわせて<不満>は3割台半ばとなっている。



2 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事で、よくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(54.2%)が最も高くなっている。次いで、「飲料水の安定供給」(33.2%)、「下水道の整備」(31.7%)、「主要な駅周辺の再開発」(30.5%)が高く、それぞれ3割を超えている。

表2 (複数回答、上位10項目) n = (1,270)

(%)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
項目	日常のごみ収集やリサイクル	飲料水の安定供給	下水道の整備	主要な駅周辺の再開発	健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策
	54.2	33.2	31.7	30.5	24.2
順位	6位	7位	8位	10位	
項目	美術館、各種ホールなど文化施設の整備	バスなどの交通網の整備	道路、公園、広場の美化・清掃	放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	公園の整備や維持管理
	23.2	23.1	22.7	22.7	20.9

3 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で、今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「防犯対策」(53.3%)、「老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策」(52.9%)、「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(51.9%)がそれぞれ半数を超えている。

表3 (複数回答、上位10項目) n = (1,270)

(%)

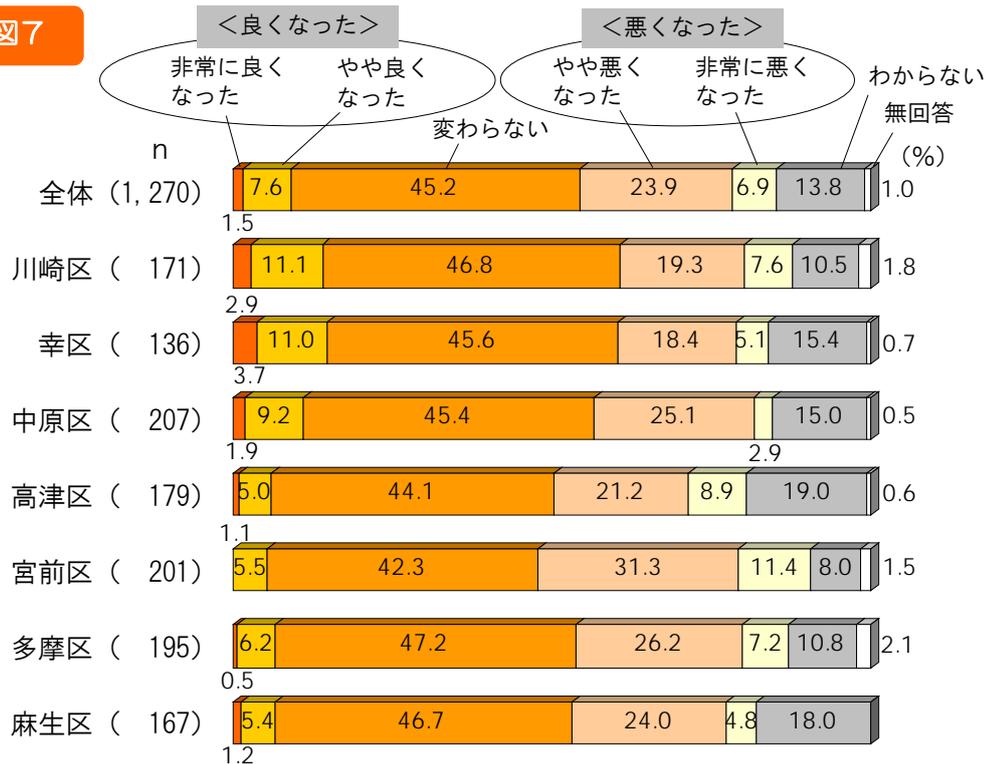
順位	1位	2位	3位	4位	5位
項目	防犯対策	老人ホーム建設、老人医療の充実など、高齢者のための施策	病院、診療所の整備や救急医療体制の整備	大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策	自然や緑の保全
	53.3	52.9	51.9	41.7	40.6
順位	6位	7位	8位	10位	
項目	健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策	放置自転車、駐輪場の整備などの自転車対策	心身の不自由な人のための施策	道路、公園、広場の美化・清掃	交通安全対策
	40.0	39.8	39.0	39.0	38.4

5 安全・安心のまちづくりについて

1 地域の治安状況の変化

治安状況の変化について聞いた。地域別でみると、〈良くなった〉は幸区（14.7%）と川崎区（14.0%）で1割台半ば、次いで中原区（11.1%）で1割を超えている。〈悪くなった〉は宮前区（42.7%）で4割を超えて最も高い。次いで多摩区（33.4%）、高津区（30.1%）で3割を超えている。

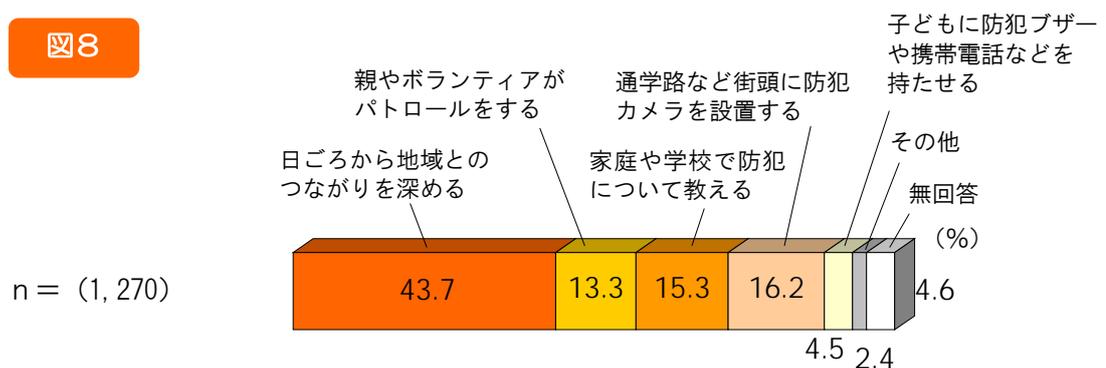
図7



2 子どもの安全を守るために効果的な取組み

子どもの安全を守るために効果的な取組みについて聞いた。「日ごろから地域とのつながりを深める」(43.7%)が4割台半ばとなっている。

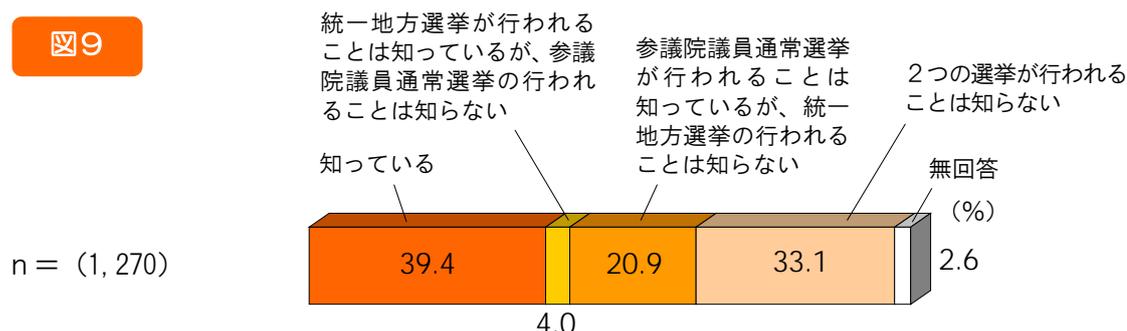
図8



6 選挙について

1 統一地方選挙と参議院議員通常選挙の認知状況

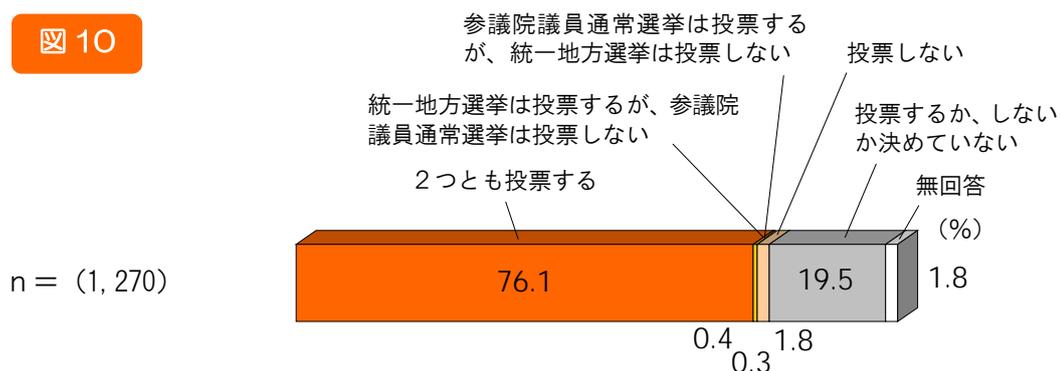
平成 19 年の統一地方選挙（川崎市議会議員選挙・神奈川県議会議員選挙及び神奈川県知事選挙）と参議院議員通常選挙の認知状況を聞いた。2つの選挙を「知っている」（39.4%）が4割に近く、統一地方選挙は4割、参議院議員通常選挙は6割の認知度である。また、「2つの選挙が行われることは知らない」（33.1%）は3割を超えている。



2 2つの選挙への投票意向

2つの選挙への投票意向を聞いた。「2つとも投票する」（76.1%）が7割台半ばで最も高くなっている。また、「投票するか、しないか決めていない」（19.5%）は2割である。

なお、どちらかまたは両方の選挙に「投票しない」と答えた方の理由は、「どの人、どの政党がよいかわからないから」（37.5%）、「その他」（37.5%）が多い。

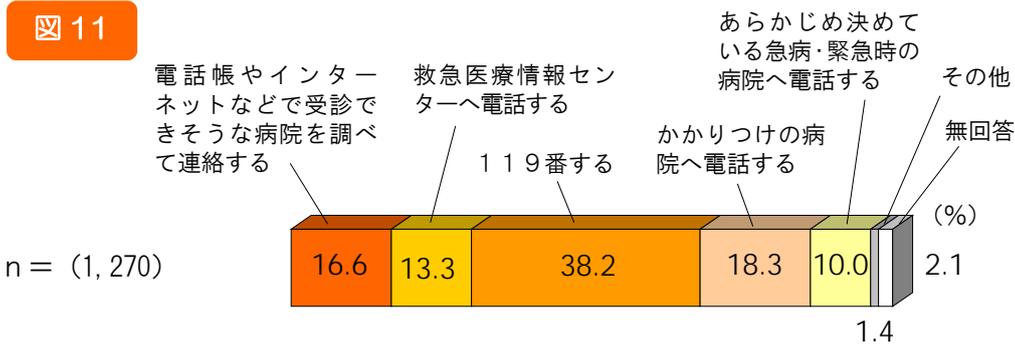


7

救急車利用について

1 急病・緊急時の病院の利用方法

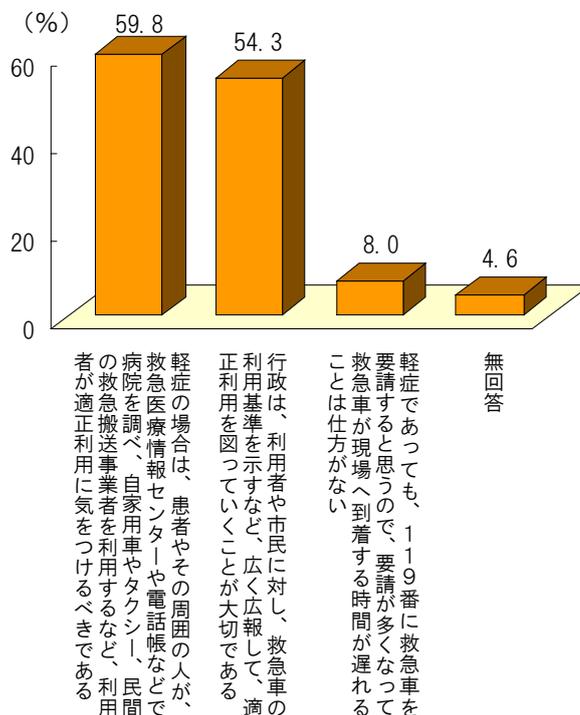
急病・緊急時の病院の利用方法を聞いた。救急医療情報センターや電話帳などで病院を調べる人が約3割、「119番する」(38.2%)人が4割近く、かかりつけの病院や急病・緊急時の病院へ電話する人が3割近くになっている。



2 救急車の適正利用について

救急車の適正利用について聞いた。「軽症の場合は、患者やその周囲の人が、救急医療情報センターや電話帳などで病院を調べ、自家用車やタクシー、民間の救急搬送事業者を利用するなど、利用者が適正利用に気をつけるべきである」(59.8%)が6割、「行政は、利用者や市民に対し、救急車の利用基準を示すなど、広く広報して、適正利用を図っていくことが大切である」(54.3%)が半数以上である。

図 12 (複数回答) n=(1,270)

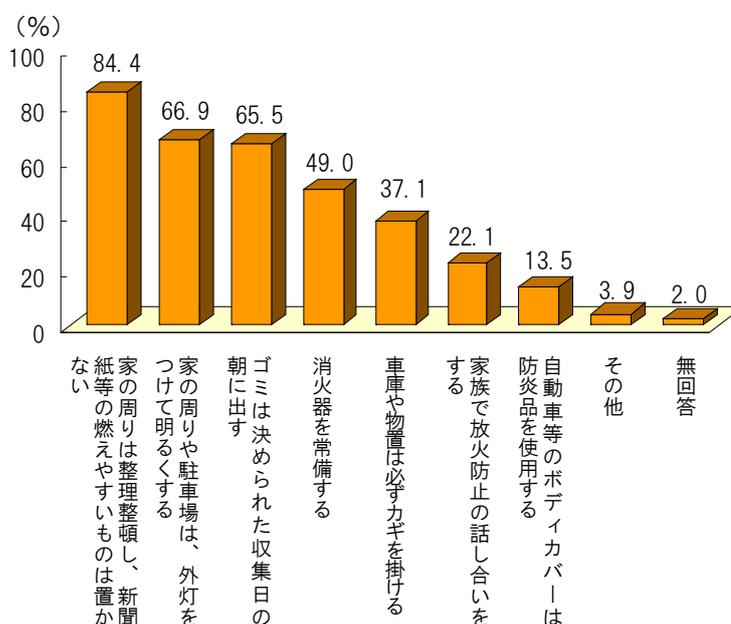


8 火災予防について

1 放火防止対策

放火防止対策を聞いた。「家の周りは整理整頓し、新聞紙等の燃えやすいものは置かない」(84.4%)が8割台半ばで最も高くなっている。次いで、「家の周りや駐車場は、外灯をつけて明るくする」(66.9%)、「ゴミは決められた収集日の朝に出す」(65.5%)が6割台半ば、「消火器を常備する」(49.0%)が約半数となっている。

図 13 (複数回答) n=(1,270)



9 コミュニティビジネスについて

1 コミュニティビジネスの認知状況

コミュニティビジネスの認知状況を聞いた。「知っていた」(6.1%)は1割に満たない。また、「聞いたことはあるが内容は知らない」(20.9%)とあわせると、名称を知っている人は4人に1人を超えている。一方、「知らなかった」(68.8%)は7割近くを占める。



図 14

n = (1, 270)

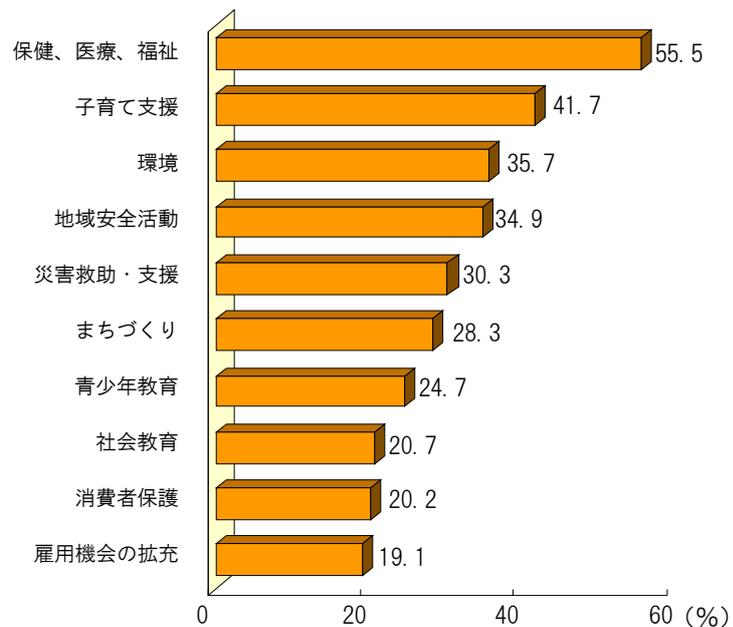
【参考】コミュニティビジネスとは・・・

地域の課題に対し、地域住民が主体的に、地域資源等を活かし、「ビジネス」の手法により解決する取組みです。

2 身の回りにおいて解決すべき、実施すべき地域課題の有無

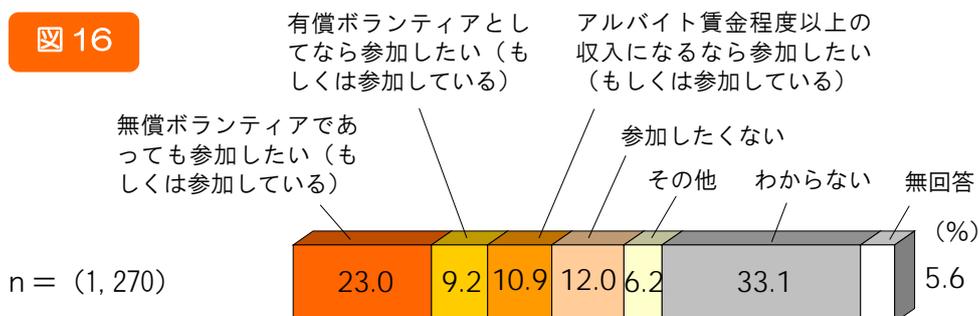
身の回りにおいて解決すべき、実施すべき地域課題の有無を聞いた。「保健、医療、福祉」(55.5%)が半数を超えて最も高い。次いで、「子育て支援」(41.7%)が4割、「環境」(35.7%)、「地域安全活動」(34.9%)が3割台半ばとなっている。以下、「災害救助・支援」(30.3%)、「まちづくり」(28.3%)の順番で続いている。

図 15 (複数回答、上位 10 項目) n = (1, 270)



3 地域課題についての取組みの活動参加意向

地域課題についての取組みの活動参加意向を聞いた。有償もしくは無償であっても参加する意志のある人が4割を超えている。また、「参加したくない」人は1割強である。

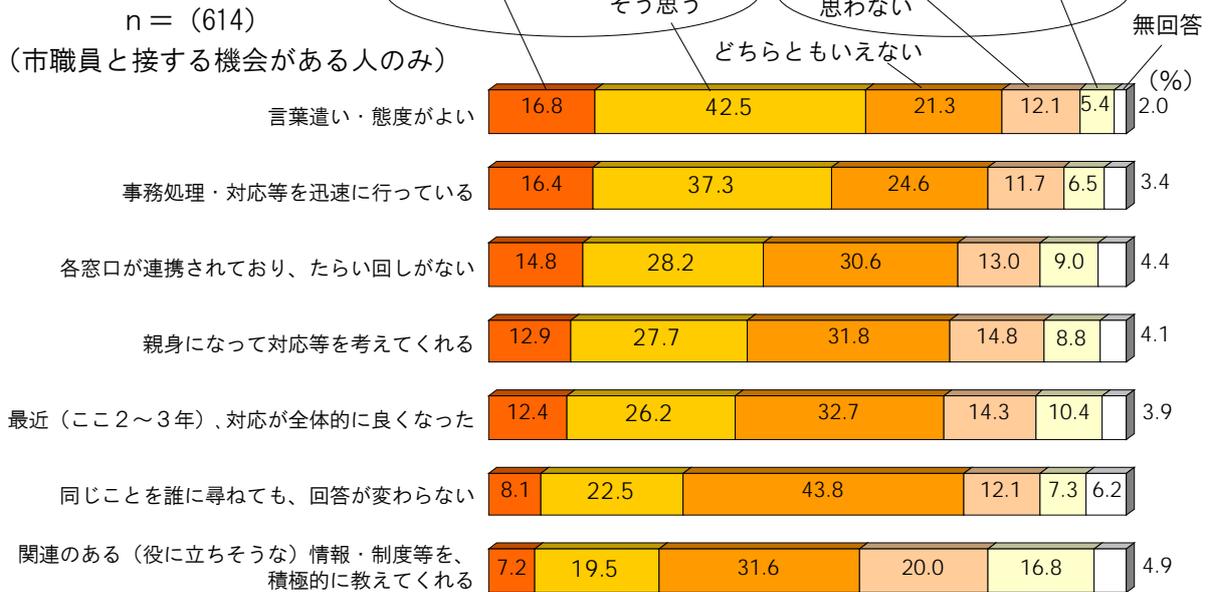


10 川崎市職員について

1 市職員による市民対応等

市職員と接する機会がある人に、市職員による市民対応について聞いた。〈そう思う〉が高いものは、『言葉遣い・態度がよい』(59.3%)、『事務処理・対応等を迅速に行っている』(53.7%)である。

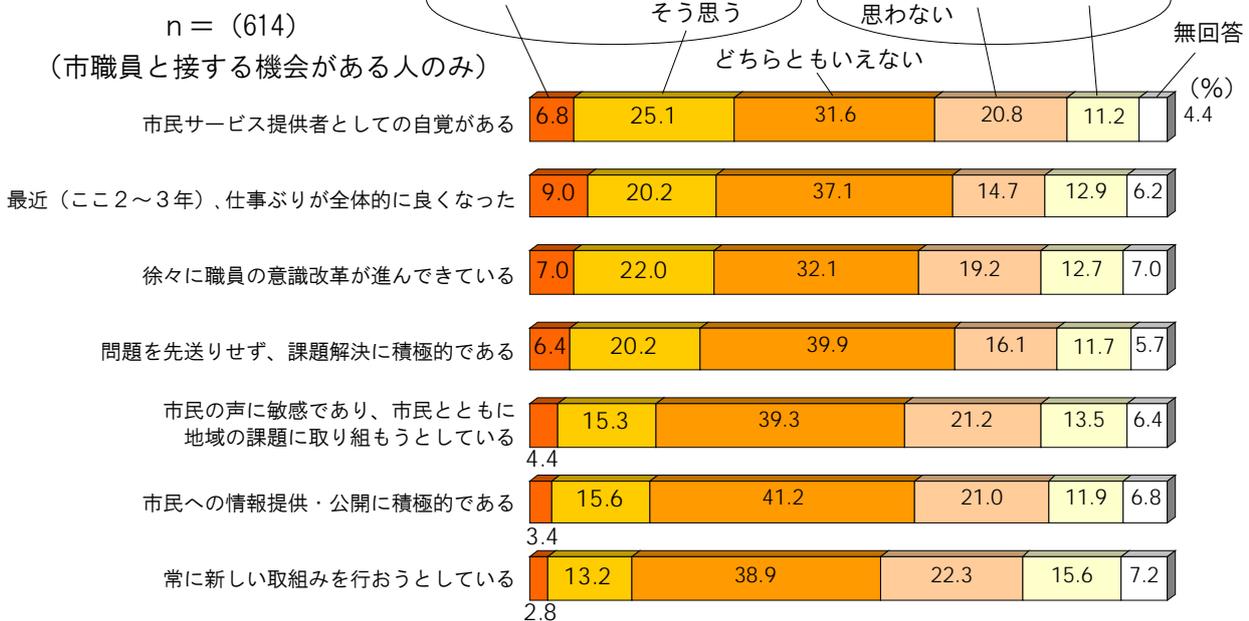
図 17



2 市職員の仕事ぶりの印象について

市職員と接する機会がある人に、市職員の仕事ぶりの印象について聞いた。〈そう思う〉が高いものは、『市民サービス提供者としての自覚がある』(31.9%)などである。

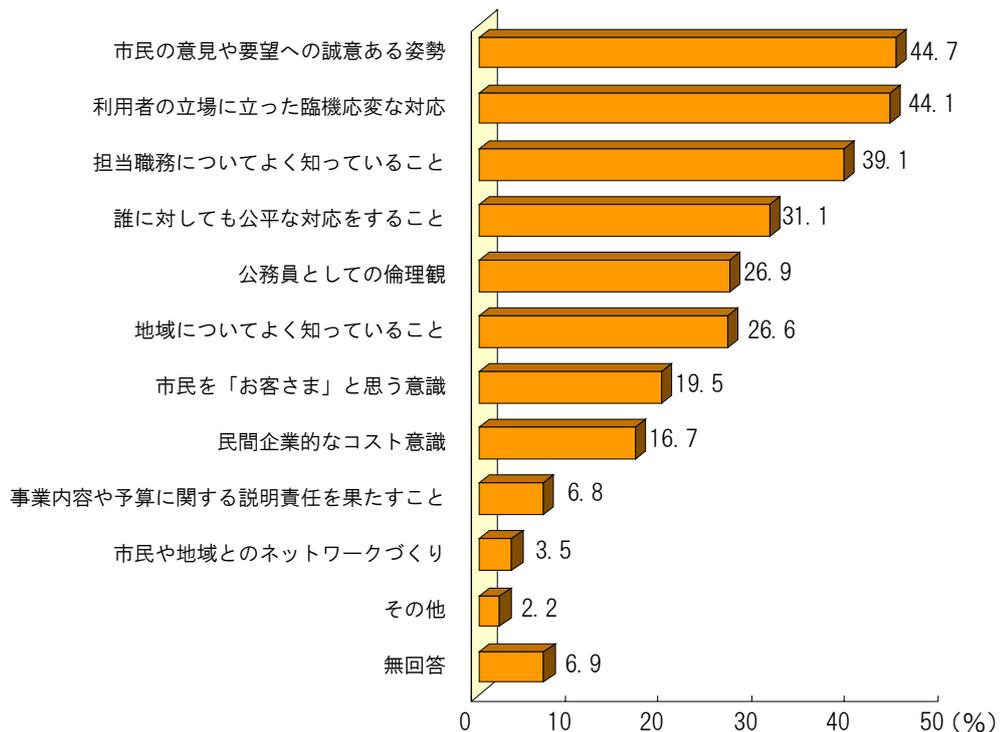
図 18



3 市職員に求めること

市職員に求めることを聞いた。「市民の意見や要望への誠意ある姿勢」(44.7%)と「利用者の立場に立った臨機応変な対応」(44.1%)がそれぞれ4割台半ばで高くなっている。次いで、「担当職務についてよく知っていること」(39.1%)が4割に近い。以下、「誰に対しても公平な対応をすること」(31.1%)、「公務員としての倫理観」(26.9%)、「地域についてよく知っていること」(26.6%)の順番で続いている。

図 19 (複数回答) n = (1, 270)



平成18年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成19年3月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2292

FAX 044-200-3919